

参考 3

アルコールフラッシュを行うことができない場合の対応方法 富士フィルム社製スコープ用

内視鏡技師会のガイドライン「マルチソサエティ実践ガイド」では、アルコールフラッシュは推奨度 I（必須の事項）ですが、消毒目的ではなく乾燥目的です。適切に洗浄消毒工程を実施すれば、アルコールフラッシュを実施しない場合でもリプロセスは達成可能です。但し、グルタラルの場合にはアルコールと組み合わせて使用する必要があります。アルコールフラッシュの代替手段として以下をご案内します。

(1) フタラル、過酢酸を使用の施設向け

① 送気送水管路（以下のいずれか）

- a) 光源装置の送気ポンプを利用して水分を排出する
- b) エアガンがある場合はエアガンで水分を排出する
- c) ENDO PUSH（専用の圧縮空気缶ツール）で水分を排出する
- d) 洗浄消毒機の送気を 10 分程度実施し、水分を排出する

② 副送水管路

副送水口から清潔なシリンジを使って水分を排出する

③ 吸引管路

吸引設備で吸引する。但し、一般的に吸引チューブは汚染されているため、清潔なアダプターなどを中継させる。

(2) グルタラルを使用の施設向け

- ・グルタラルは抗酸菌の殺滅に不適であり、アルコールと併用することでリプロセスを達成します（参照：内視鏡技師会ガイドライン第 2 版）。
- ・グルタラルによる消毒、すすぎ後には、毎回必ずアルコールフラッシュを実施するか、もしくはフタラル、過酢酸への切り替えをお願いします。
- ・フタラル、過酢酸へ切り替えた際には、上記(1)の対応をお願いします。

※管路内残水による微生物の再汚染が懸念されると判断した場合には、使用前に再度、洗浄消毒を実施してください。

※消毒用エタノール以外のアルコール剤は数多くの製品があり、これらを手、機器への影響を確認し次第、ご案内させていただきます。